

各教科等における 「令和7年度の重点」

「自ら考え、判断し、表現できる子供」を目指して

学習指導要領では、子供たちに知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」を育むため、育成を目指す資質・能力の三つの柱として「知識及び技能」の習得と「思考力、判断力、表現力等」の育成、「学びに向かう力、人間性等」の涵養が示されています。

これらの資質・能力を育成するため、子供たちが学びの過程の中で、他者との協働を通じて自己の考えを広げ、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、自ら課題を見いだして解決策を考えたりするなど、1人1台端末を活用し、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善することにより、学校教育における質の高い学びを実現します。

徳島県教育委員会では、「確かな学力」において目指す子供像を「自ら考え、判断し、表現できる子供」とし、「豊かな心」「健やかな体」の育成との調和を図りながら、目指す子供の姿を実現します。

また、多様で複雑な現代の社会を生きていく子供たちには、様々な形式で伝えられる情報を読み取る力や、自分の考えを形成するために必要な情報を取捨選択し、選び取った情報を解釈したり活用したりする力が必要となります。このような力を「徳島版読解力」と定義し、すべての教科等においてその育成を図ります。

「徳島版読解力」を構成する「5つの力」

1 正確に読む力

多様なメディアが発信する文章などから、読み違い、読み飛ばし、思い込み等をせずに情報を読み取る力

2 必要な情報を取り出す力

読み取った情報から、目的や意図に応じて、必要な情報を選び出す力

3 比較・関連付けて理解する力

取り出した情報を比較したり、相互の関係性を見出したりしながら、共感的、批判的な視点で情報の価値を捉える力

4 見直す力

取り出した情報が、問題を解決するために適切かどうかを点検する力

5 発信する力

取り出した情報を基に、目的や意図に応じて自分の考えを明確にし、表現方法を選んで発信したり交流したりする力



目指す子供の姿

- 日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付け、適切に使うことができる。
- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」に関する活動において、目的や意図に応じて、必要な情報を選び、他者と伝え合うことを通して、自分の思いや考えをもったり、まとめたり、広げたりして、表現することができる。
- 課題解決に向けて活動に粘り強く取り組むなかで、言葉を通じて人と関わり、言葉がもつよさを認識しようとしたり、言葉をよりよく使おうとしたりしている。

目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容

- ①育成を目指す資質・能力を明確にし、実施状況を評価して改善を図りながら、子供一人一人に最適な学びを重ねていく場の設定
 - ◇振り返りやアンケート、学力調査等を活用し、子供一人一人のつまずきを捉えて指導する。
 - ◇国語科で育成した資質・能力を他教科等の学習に生かすことができるように、教科等横断的な学習の充実を図る。
- ②「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」を関連させ、言語活動を通して資質・能力を育成する単元の構想と展開
 - ◇語彙の量と質の充実を図るために、読書活動の推進や実生活に関連した言語活動を取り入れるなどして、語句を蓄積することや蓄積した語句を意図的に使わせることに、継続的に取り組む。
 - ◇目標と言語活動の設定の工夫、学習の手引きや多様なモデルの提示等、指導と支援を通し、他者と協働しながら、主体的に学習を進める過程を設定する。
 - ◇子供の実態を的確に捉え、実態に即して、学習過程を弾力的にし、螺旋的・反復的に繰り返したり取り立てたりして指導する。
 - ◇目的や意図に応じて、必要な情報を取り出して整理し、その関係を捉えることで、話や文章を正確に理解したり、自分のもつ情報を整理し、その関係を明確にすることで、適切に表現したりする活動を設定する。
 - ◇言葉による見方・考え方を働かせるために、子供が比較・分類・関係付け等様々な思考に取り組むよう発問や指示を工夫する。
- ③身に付けた資質・能力や学習内容をＩＣＴ活用等により自覚化を図る指導の充実
 - ◇多様な学習の記録（ノート、成果物、映像等電子データ）が生まれるように工夫する。
 - ◇「書くこと」を通して振り返りをさせるとともに、ICTの効果的な活用により、学びを深めさせる。

目指す子供の姿

- 地域や我が国の国土の地理的環境、現代社会の仕組みや働き、地域や我が国の歴史や伝統と文化を通して社会生活について理解しているとともに、様々な資料や調査活動を通して情報を適切に調べまとめている。
- 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したり、考えたことや選択・判断したことを適切に表現したりしている。
- 社会的事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとしている。

目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容

- ①児童が学習問題を把握し、その解決へ向けての見通しを持てる学習活動の充実
 - ◇単元を通した学習過程を構成し、動機付けや方向付けを重視する。
 - ◇学習内容・活動に応じた振り返りの場面を設定し、児童の表現を促す。
- ②児童が学習問題を追究する中で自分の考えを広げ、深める学習活動の充実
 - ◇社会科の特質に根ざした追究の視点を生かした問いを設定する。
 - ◇「社会的な見方・考え方」を働かせた多角的な考察場面や社会に見られる問題の解決に向けた選択・判断場面を位置付ける。
- ③児童が情報を読み取り、取捨選択し、解釈・活用する学習活動の充実
 - ◇「徳島版読解力」を育成する場面を単元を通した学習過程に位置付ける。
 - ◇「徳島ＩＣＴ活用モデル」を参考に１人１台端末等を効果的に活用する。

目指す子供の姿

- 数量や図形に関する基礎的・基本的な知識及び技能を確実に身に付けている。
- 筋道立てて考え、具体物、図、言葉、数、式、表、グラフなどを用いて事象や問題解決の過程を簡潔・明瞭・的確に表現したり、統合的・発展的に考察したりしている。
- 算数の楽しさやよさを実感し、算数で学んだことを生活や学習に活用しようとしている。

目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容

①学習評価を充実させ、学びの質を高める

- ◇本時だけでなく、単元を通してどのような資質・能力を育成するのかを把握する。『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料小学校算数』をもとに、評価規準の設定や単元計画の作成を行い、評価問題を工夫する等、児童の学びの質を高める。

②児童の学びのプロセスを重視し、児童が意味や根拠を説明できるようにする

- ◇児童が新しい問題に出合ったとき、自ら既習内容を振り返り、関連する内容を糸口として問題解決できるように、教師は「どうすればよいですか」等を問い、児童が既習内容と関連付けられるようにする。
- ◇児童が意味や根拠を考え、説明できるように、教師は説明ばかりするのではなく、意見が出たあと「～さんは、なぜそのように考えたのかな」とあえて全体に問いかけることで、数学的な見方・考え方を顕在化させ、完成した図や式でなく問題解決の過程を共有できるようにする。また、児童のつまづきを事前に想定し、図による可視化等、解消できる方策をもつようにする。
- ◇児童が統合的・発展的に考察することができるように、振り返りにおいて、既習内容との共通点から一つのものとして捉え直したり、考察の範囲を広げて新たな問題を見いだしたりする場を確保する。

③学級全体で児童が学び合うことを価値付ける

- ◇児童が「自分だけ分かればよいのではなく、学級の全員が分かること」を目指し、協働的に学ぶことができるように、具体物、図、言葉、数、式、表、グラフ等数学的な表現を目的に応じて柔軟に用いる場を確保する。ICTは、「デジタルの力でリアルな学びを支える」という考えに立ち、資質・能力の育成のために積極的に活用する。

目指す子供の姿

- 自然の事物・現象についての性質や規則性などを理解するとともに、器具や機器などを目的に応じて工夫して扱いながら観察、実験などを行い、それらの過程や得られた結果を適切に記録することができる。
- 自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を基に考察し、それらを表現するなどして問題解決することができる。
- 自然の事物・現象に進んで関わり、粘り強く、他者と関わりながら問題解決しようとするとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとすることができる。

目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容

①自然の事物・現象について理解し、観察・実験の技能を身に付ける学習活動の充実

- ◇自然の事物・現象の性質や規則性などを理解し、身に付けた知識を活用する場面を設定する。
- ◇器具や機器などを目的に応じて工夫して扱い、観察、実験などの過程や得られた結果を適切に記録する場面を設定する。
- ◇観察、実験などの指導に当たっては、予備実験等を行い、事故防止に留意する。

②自然の事物・現象の中に問題を見だし、「問題解決の過程」をたどらせる学習活動の充実

- ◇自然の事物・現象の中に問題を見いだす場面、根拠のある予想や仮説を発想する場面、解決の方法を発想する場面、より妥当な考えをつくりだす場面を設定する。
- ◇理科学習の一層の充実を図るための有用な道具としてICT（1人1台端末）を位置付け、活用する場面を選択し、丁寧な指導を行う。

③自然の事物・現象に進んで関わり、問題解決しようとする学習活動の充実

- ◇自然の事物・現象に進んで関わり、生物を愛護する態度、生命を尊重する態度を養う学習活動を工夫する。
- ◇粘り強く他者と関わりながら問題を解決しようとする場面を設定する。
- ◇学んだことを自然の事物・現象や日常生活に当てはめてみようとする場面を設定する。

④理科学習を通した「徳島版読解力」の育成

- ◇理科の資質・能力の育成に向け、学習活動モデルを参考に「徳島版読解力」の育成を図る。

目指す子供の姿

- 自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けている。
- 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現することができる。
- 身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとしている。

目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容

①具体的な活動や体験の充実

- ◇児童の生活圏にある人、社会、自然を学習の対象や場とし、それらと直接関わる活動を重視する。
- ◇試行錯誤したり、納得のいくまで追究したりできる体験活動の充実を図る。

②気付きの質を高める学習活動の充実

- ◇体験の中で気付いたことを言葉、絵、動作、劇化など多様な方法で表現する場を設定する。
- ◇体験活動と表現活動とが豊かに行き来する相互作用を重視する。
- ◇伝え合い交流する場を工夫する。
- ◇気付いたことを基に考えることができるようにするため、「見付ける、比べる、たとえば、試す、見通す、工夫する」などの多様な学習活動を行う。
- ◇気付きの質を高める手段の一つとして、児童の発達段階に応じて、記録、振り返り、表現、交流などの場面でICTを利用することも考えられる。

③学びの連続性の保障

- ◇各教科等との合科的・関連的な指導の充実を図る。
- ◇「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえ、幼児期における学びとの円滑な接続を図る。

目指す子供の姿

- 音楽活動を通して、曲想と音楽の構造などとの関わりについて気付いたり理解できたりするとともに、思いや意図に合った音楽表現をするために必要な技能を身に付けて、演奏したり音楽をつくったりできる。
- 音楽的な見方・考え方を働かせ、音楽表現を考えて表現に対する思いや意図をもったり、曲や演奏の楽しさやよさを見いだしながら、音楽を味わって聴いたりできる。
- 音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に、表現及び鑑賞の学習活動に取り組むことができる。

目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容

①音楽活動の中で、実感を伴いながら知識を習得したり更新したりする学習活動の充実

- ◇児童が音楽から感じ取ったイメージや感情と、音楽を形づくっている要素の表れ方などとの関係を捉え、知識として習得したことを、表現や鑑賞の活動に生かすことができる学習活動を設定する。

②技能と「思考力、判断力、表現力等」の育成とを関わらせた学習活動の充実

- ◇低学年では音楽表現を楽しむために、中・高学年では表したい音楽表現をするために必要な技能の習得を目指す。
- ◇音楽表現を考える過程で、思いや意図を実現するための技能を習得することの必要性を実感できる学習活動を設定する。

③児童の思いや意図を音楽表現に生かしたり、音楽のよさや面白さを見いだし、曲全体を聴き深めたりすることができるような学習活動の充実

- ◇「児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素」を明確にし、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考える学習場面を設定する。
- ◇演奏して試す、何度も聴く、話し合いなどによって、音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図ることで、音楽の特徴やよさに気付き、表現や鑑賞の活動を深めることができる学習過程を工夫する。

④ICTの効果的な活用による表現及び鑑賞の活動の充実

- ◇児童が様々な感覚を働かせて音楽への理解を深めたり、主体的に学習に取り組んだりすることができるように、指導のねらいの明確化や活用場面の精選を図ることにより、効果的にICTを活用する。

目指す子供の姿

- 対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解するとともに、材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりすることができる。
- 造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想をしたり、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりすることができる。
- つくりだす喜びを味わい、主体的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとすることができる。

目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容

- ①造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解したり、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりする学習活動の充実**
 - ◇自分の感覚や行為を通して、形や色などの造形的な視点を理解する学習活動を設定する。
 - ◇材料や用具について基本的な扱い方を理解した上で、扱うこと自体を楽しめる活動を設定する。
- ②創造的に発想や構想をする学習活動の充実**
 - ◇形や色などの造形的な視点を基に、児童の思いを大切にしたい学習活動を重視する。
 - ◇造形遊びの活動を年間指導計画上で適切に位置付け、活動の充実を図る。
 - ◇「A表現」及び「B鑑賞」の相互の関連を図る学習場面を設定する。
 - ◇「つくり、つくりかえ、つくる」活動を重視する。
- ③作品などに対する自分の見方や感じ方を深める学習活動の充実**
 - ◇友達の表現や作品、親しみのある美術作品、生活の中の造形等を鑑賞する場面を設定し、自分の考えや表現の仕方との共通点、相違点を見付ける学習活動を行う。
 - ◇見方や感じ方について交流する学習を設定し、交流の中で心に残った友達の言葉や表現の仕方の工夫を書き留めるなどして、互いのよさや個性を尊重し合う活動の充実を図る。
- ④ICTの効果的な活用による表現及び鑑賞の活動の充実**
 - ◇表現活動では、表現したことを画像や動画で記録したり、容易に試行錯誤することができるソフトウェアを活用した表現を行ったりする。
 - ◇鑑賞活動では、撮影した画像や動画を1人1台端末で共有しながら交流したり、美術館のウェブサイトを開覧して美術作品を鑑賞したりする。

目指す子供の姿

- 家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて、日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けている。
- 日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。
- 家族の一員として、生活をよりよくしようと、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫しようとする、実践的な態度を身に付けている。

目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容

- ①実践的・体験的な活動の充実**
 - ◇実習や観察、調査、実験などの実践的・体験的な活動を通して、習得した知識及び技能を、生活の場で生かせるよう、児童の実態を踏まえた具体的な学習活動を設定する。
- ②問題解決的な学習の充実**
 - ◇児童が、生活を見つめ、問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考える学習を通して、課題を解決できた達成感や、実践する喜びを味わうことができる学習過程を計画する。
 - ◇課題解決の見通しをもち、他者と協働しながら解決方法を考え、根拠や理由を明確にして分かりやすく説明したり発表したりする学習場面を設定する。
- ③ICTの効果的な活用**
 - ◇児童の思考の過程や結果を可視化する、大勢の考えを瞬時に共有化する、情報を収集・整理し編集することを繰り返し行い試行錯誤するなどの学習場面において、ICTを効果的に活用する。

目指す子供の姿

- その特性に応じた各種の運動の行い方及び身近な生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な動きや技能を身に付けている。
- 運動や健康についての自己の課題を見付け、その解決に向けて思考し判断するとともに、それらを他者に伝えている。
- 運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活をしようとしている。

目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容

- ①運動の楽しさや喜びを味わったり健康の大切さを実感したりすることを重視した学習活動の充実
 - ◇児童が運動の特性に触れることができる授業づくりを行う。
 - ◇運動が苦手な児童や運動に意欲的でない児童への指導等の在り方について配慮する。
 - ◇障害のある児童などについての指導方法の工夫を行う。
 - ◇健康に関する課題を解決する学習活動を積極的に行うなど指導方法の工夫を行う。
- ②「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実
 - ◇自ら学習を調整しながら学んでいくことができるよう、個に応じた指導を充実させる。
 - ◇児童同士の関わり合いや児童と教師の関わり合いなどの場面を充実させる。
 - ◇ICTを効果的に活用する。
- ③「徳島版読解力」を構成する「5つの力」の育成を図る。
 - ◇「5つの力」の育成につながるような学習場面を設定する。

目指す子供の姿

- 外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気付き、これらの知識を理解するとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けている。
- コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うとともに、音声で十分慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合っている。
- 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容

- ①自分の考えや気持ちを伝え合う言語活動の充実
 - ◇すべての領域においてコミュニケーションを行う目的や場面、状況等を意識した、必然性のある言語活動を行う。
 - ◇Teacher Talk、指導者と児童・児童同士のSmall Talkを行うことで、対話を続けるスキルの習得と既習表現の定着を図る。
 - ◇「徳島ICT活用モデル」を基に、ICTを効果的に活用する（1人1台端末を用いた発表ややり取り等）ことで、言語活動の更なる充実を図る。
- ②学習改善・指導改善につながる評価の工夫
 - ◇「『徳島版読解力』を育成する学習のイメージ」を基に、単元全体を見通した指導と評価の計画を立て、児童のパフォーマンスを観察する等して学習状況を把握するとともに、個々の児童の学習調整に向けた取組につなげる。
 - ◇学習過程等を1人1台端末で録画（録音）する等して児童と教師が共有し、児童の学習改善及び教師の指導改善に活用する。

目指す子供の姿

- 人間として生きるために道徳的価値が大切なことを理解し、様々な状況下において人間としてどのように対処することが望まれるかを判断する力が育まれている。
- 人間としてのよりよい生き方や善を志向する感情が育まれている。
- 道徳的判断力や道徳的心情を基盤とし道徳的価値を実現しようとする意志が高まっていたり、道徳的行為への身構えができたりしている。

目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容

①自己を見つめる学習活動の充実

- ◇自分との関わり、自分の経験やそのときの感じ方、考え方と照らし合わせながら、更に考えを深める場面を設定する。
- ◇自らを振り返り、成長を実感したり、これからの課題や目標を見付けたりできる場面を設定する。

②物事を多面的・多角的に考える学習活動の充実

- ◇多様な価値観の存在を前提にして、他者と対話したり協働したりする場面を設定する。
- ◇物事を一面的に捉えるのではなく、児童自らが道徳的価値の理解を基に考え、様々な視点から物事を理解し、主体的に学習に取り組むことができるようにする。
- ◇「徳島版読解力」を基に、根拠を明確にし、他者と議論する場面を設定するとともに、「徳島ICT活用モデル」を参考に、多面的・多角的な思考を促す。

③自己の生き方についての考えを深める学習活動の充実

- ◇道徳的価値の自覚を深める過程で、同時に自己の生き方についての考えを深めていることを強く意識させる場面を設定する。
- ◇道徳的価値の理解を自分との関わりで深めたり、自分自身の体験やそれに伴う感じ方や考え方などを確かに想起したりすることができるようにする。

目指す子供の姿

- 外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、日本語と外国語との音声の違い等に気付くとともに、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しんでいる。
- 身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合っている。
- 外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容

①自分の考えや気持ちを伝え合う言語活動の充実

- ◇「聞くこと」、「話すこと（発表）」、「話すこと（やり取り）」の領域においてコミュニケーションを行う目的や場面、状況等を意識した、必然性のある言語活動を行う。
- ◇児童が興味・関心を示す身近な事柄について、簡単な語句から基本的な表現へと段階的に聞いたり話したりすることで、十分に慣れ親しませる。
- ◇「徳島ICT活用モデル」を基に、ICTを効果的に活用する（1人1台端末を用いた発表ややり取り等）ことで、言語活動の更なる充実を図る。

②学習改善・指導改善につながる評価の工夫

- ◇「『徳島版読解力』を育成する学習のイメージ」を基に、単元全体を見通した指導と評価の計画を立て、児童のパフォーマンスを観察する等して学習状況を把握するとともに、個々の児童の学習調整に向けた取組につなげる。

小学校の各教科等の重点

目指す子供の姿

- 課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、様々な場面において探究的な学習を進めることができる。
- 実社会や実生活の中から課題を設定し、課題解決のために情報を集め、整理・分析し、まとめたり表現したりすることができる。
- 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、自他のよさを尊重しながら、積極的に社会に参画しようとするすることができる。

目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容

①学習過程を探究的にすること

- ◇「課題の設定」では、実社会や実生活に関わる体験をすることで、自ら課題意識をもち、その意識が連続発展することができるよう、教師が意図的な働きかけを行う。
- ◇「情報の収集」では、課題解決のための情報収集を自覚的に行うとともに、体験で獲得した情報をレポートなど適切な方法で蓄積することにも配慮する。
- ◇「整理・分析」では、目的に応じて、比較して考える、分類して考える、序列化して考える、類推して考える、関連付けて考える、原因や結果に着目して考える、などの「考えるための技法」を用いて思考を可視化できるようにする。
- ◇「まとめ・表現」では、相手意識や目的意識を明確にしてまとめたり、表現したりすることで、情報を再構成し、自分自身の考えや新たな課題を自覚し、探究の過程が繰り返されるようにする。
- ◇探究的な学習における児童の学習の姿と、「徳島版読解力」を構成する5つの力との関連を図るようにする。

②他者と協働して主体的に取り組む学習活動にすること

- ◇体験活動を探究活動の過程に意図的に位置付けるとともに、ICTや思考ツールなどを効果的に活用しながら、互いに教え合い学び合う活動や地域の人との意見交換や交流活動など、他者と協働して課題を解決し自分の考えを深めようとする学習活動を重視する。ICT活用については、「徳島ICT活用モデル」に示される段階及び指数をイメージしながら授業デザインを行う。

目指す子供の姿

- 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や、活動を行う上で必要となることについて理解している。
- 自己の生活の充実・向上や自分らしい生き方の実現に必要なことについて理解している。
- よりよい生活を築くための話し合い活動の進め方、合意形成の図り方などの技能を身に付けている。
- 所属する様々な集団や自己の生活の充実・向上のため、問題を発見し、解決方法について考え、話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりして実践している。
- 生活や社会、人間関係をよりよく築くために、自主的に自己の役割や責任を果たし、多様な他者と協働して実践しようとしている。
- 主体的に自己の生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとしている。

目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容

①「合意形成を図る」「意思決定を行う」活動の充実

- ◇議題や題材を選定・設定し、根拠を明確にして自分の考えを話したり、意図を捉えながら聞いたりして、「折り合いを付けながら集団として合意形成を図る」「集団思考を生かした一人一人の意思決定を行う」話し合い活動ができるように指導・支援を工夫する。

②「多様な考え」「自分の考え」をよりよい方向へつなげていく活動の充実

- ◇実践や体験を通して感じたり、気付いたりしたことを振り返り、言葉でまとめたり、発表し合ったりする活動を重視するとともに、次の活動に生かすことができるように支援する。

- ◇ICTを活用する場面を適切に選択し、教師の丁寧な指導の下で効果的に活用する。

③合意形成したり、意思決定したりしたことを実践する活動の充実

- ◇合意形成したことを基に、全員で役割を分担して協力したり、意思決定したことを基に、個人として努力したりして、目標の実現や達成を目指すよう支援する。
- ◇児童が実践や体験を通し、集団の一員としての望ましい生き方についての認識をもつことができるよう、各教科、道徳科、外国語活動及び総合的な学習の時間などとの関連を図った指導をする。